

見本

新 保育士養成カリキュラム

保育士をめざす人の

福祉施設実習

第2版

編集

愛知県保育実習連絡協議会
「福祉施設実習」編集委員会

編集代表

伊藤貴啓・小川英彦



はじめに

保育士になるには、本当にたくさんの方のことを学んで、身に付けなければならないんだ、と感じている人は多いと思います。子どもたちの健やかな成長・発達を促し、生命を守り、また子育てを支援するといった重要な役割を担う保育の専門職になるために、こういったたくさんの方のことを学ばなければいけないということは、もう理解されていることでしょう。そして、学校での勉強だけでなく、実習を通して学ぶことも保育士になるためには重要です。

さて、今日、専門的なケアを要する子どもたちが増加しているといわれています。保育士としての専門知識・専門技能だけでなく、常にさまざまな子どもたちを理解し、保育できるように努力することも大切です。つまり、保育士には、日常生活を支えるなかにも高い専門性が求められているのです。また、個別対応職員として被虐待児をケアする、発達障害児を支援する高い専門性をもった保育士、親子関係の調整や家族の再統合をめざすファミリーソーシャルワーカーとしての役割を担う保育士が、児童福祉施設では必要とされるようになりました。

なぜこのように高い専門性を保育士に求められるのかは、実習で子どもたちと直接かかわったり、子どもたちの家庭環境や生育歴を知ったりすることによって深く理解できると思います。同時に、福祉施設実習（以下、本書では「施設実習」という）を通して、子どもたちの生活を支えることの意味を知ること、子どもたちの発達を保障すること、子どもの権利を護ることの大切さを知ること、子どもたちが自立していくのを支援する保育士の役割を知ることなどについて、施設保育士のさまざまな職務を体験的に学ぶとともに、学校で学んだことを総合的に理解することができると思います。そして、この施設実習で学んだことは、保育所で行われている保育・子育て支援・保護者支援にも役に立つものとなります。

2011年度から保育士養成のカリキュラムが改正され、実習についても、目標・実習指導等が変更・追加となりました。また、2012年度の児童福祉法の改正により施設種別が変更となりました。それらに対応するよう本書を改訂し、より充実した実習となるような内容にしました。

限られた期間の実習ですが、保育士をめざすみなさんにとって、人生のなかでも非常に密度の濃い、記憶に残る日々になると思いますし、得るものが多い、自分を見つめるよい機会となるはずです。たくさんの方が詰まっている施設実習が実り多いものとなるように、この本を十分に活用していただければ幸いです。

2013年7月

編集代表 伊藤貴啓 小川英彦

第1章 施設実習とは

1 実習生の立場から	10
① 保育実習 I の意義と目的	11
② 保育実習 I の概要	12
2 福祉施設の利用	14
① 福祉施設の種類と特性についての理解	14
② 学んだ知識や技術と現実のギャップ	15
③ 生活の場としての入所施設	15
④ 多様な職種の専門家が働く場	15
⑤ 地域に開かれた施設へ	15
3 子ども（利用者）の利用	16
4 福祉施設での保育士の利用	19
① 施設での職員構成	19
② 職員間の役割分担や連携	19
③ 保育士の役割（専門性）	20
④ 職業倫理	20

第2章 施設実習の準備と実習計画書の作成

1 実習生としての心構え	22
① 実習生としての基本的な姿勢	22
② 実習に取り組む姿勢	22
③ 実習課題の明確化	23
④ 健康管理	24
2 事前学習	24
① 事前学習の意義	24
② 事前学習の方法と内容	25
3 事前指導（オリエンテーション）	26
① 事前指導（オリエンテーション）日の決定	26
② 事前指導（オリエンテーション）以前	27
③ 事前指導（オリエンテーション）当日	27
4 実習計画	28

- ① 実習計画の意義 / 28
- ② 実習計画書の作成方法 / 29
- ③ 実習計画の展開 / 32

第3章 施設実習の内容

- 1 生活指導 34
 - ① 生活指導とは / 34
 - ② 生活指導の実際 / 34
- 2 学習指導 36
 - ① 施設での学習指導の意義 / 36
 - ② 学習指導の実際 / 37
 - ③ 学習指導での実習内容 / 37
- 3 療育指導 38
 - ① 療育とは / 38
 - ② 今日の療育と療育指導 / 39
 - ③ 療育指導と施設実習 / 39
- 4 自立支援 40
 - ① 自立支援とは / 40
 - ② 自立支援のための視点 / 40
 - ③ 実習における自立支援の内容と理解 / 42

第4章 施設実習の記録と評価

- 1 記録の意味と実習日誌の書き方 44
 - ① 記録の意味 / 44
 - ② 実習日誌の書き方 / 45
 - ③ 記録に基づく省察・自己評価 / 51
 - ④ 支援計画の理解と活用 / 51
- 2 実習施設での反省会 51
 - ① 反省会の意義 / 51
 - ② 反省会の内容 / 52
 - ③ 反省会に臨む態度 / 52
- 3 実習評価 53
 - ① 評価の目的 / 53
 - ② 評価基準 / 54
 - ③ 評価の方式 / 54
 - ④ 評価結果の活用 / 55

第5章 養護系施設の実習の内容

1	乳児院での実習	58
①	乳児院の概要	58
②	乳児院での実習を深めるために	60
2	母子生活支援施設での実習	62
①	母子生活支援施設の概要	62
②	母子生活支援施設での実習を深めるために	64
3	児童養護施設での実習	66
①	児童養護施設の概要	66
②	児童養護施設での実習を深めるために	68
4	児童自立支援施設での実習	70
①	児童自立支援施設の概要	70
②	児童自立支援施設での実習を深めるために	72
コラム①	データからみる子どもの貧困問題	74

第6章 障害系施設の実習の内容

1	障害児施設・事業の一元化	76
2	障害者施設・事業体系の再編	77
3	福祉型児童発達支援センター（知的障害児通園施設）での実習	78
①	福祉型児童発達支援センター（知的障害児通園施設）の概要	78
②	福祉型児童発達支援センター（知的障害児通園施設）での 実習を深めるために	80
4	医療型児童発達支援センター（肢体不自由児通園施設）での実習	82
①	医療型児童発達支援センター（肢体不自由児通園施設）の概要	82
②	医療型児童発達支援センター（肢体不自由児通園施設）での 実習を深めるために	84
5	福祉型障害児入所施設（知的障害児施設）での実習	86
①	福祉型障害児入所施設（知的障害児施設）の概要	86
②	福祉型障害児入所施設（知的障害児施設）での 実習を深めるために	88
6	福祉型障害児入所施設（盲ろうあ児施設）での実習	90
①	福祉型障害児入所施設（盲ろうあ児施設）の概要	90
②	福祉型障害児入所施設（盲ろうあ児施設）での 実習を深めるために	92
7	福祉型（医療型）障害児入所施設（自閉症児施設）での実習	94
①	福祉型（医療型）障害児入所施設（自閉症児施設）の概要	94

② 福祉型（医療型）障害児入所施設（自閉症児施設）での 実習を深めるために / 96	
8 医療型障害児入所施設（肢体不自由児施設）での実習	98
① 医療型障害児入所施設（肢体不自由児施設）の概要 / 98	
② 医療型障害児入所施設（肢体不自由児施設）での 実習を深めるために / 100	
9 医療型障害児入所施設（重症心身障害児施設）での実習	102
① 医療型障害児入所施設（重症心身障害児施設）の概要 / 102	
② 医療型障害児入所施設（重症心身障害児施設）での 実習を深めるために / 104	
10 児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）での実習	106
① 児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）の概要 / 106	
② 児童心理治療施設（情緒障害児短期治療施設）での 実習を深めるために / 108	
11 障害者支援施設（知的障害者更生施設）での実習	110
① 障害者支援施設（知的障害者更生施設）の概要 / 110	
② 障害者支援施設（知的障害者更生施設）での 実習を深めるために / 112	
12 障害福祉サービス事業所（知的障害者（小規模）通所授産施設）での実習	114
① 障害福祉サービス事業所（知的障害者（小規模）通所授産施設）の 概要 / 114	
② 障害福祉サービス事業所（知的障害者（小規模）通所授産施設）での 実習を深めるために / 116	
コラム② 事例からみる子どもの貧困問題	118

第7章 施設実習の事後指導

1 実習の反省とまとめ	120
① 施設実習終了直後 / 120	
② 実習記録返却後 / 120	
③ 事後指導における総括・自己評価と課題の明確化 / 120	
④ そのほか（文集の作成） / 121	
2 実習施設へのお礼	121
① 実習施設へお礼に伺う場合 / 121	
② 実習施設へ礼状を書く場合 / 122	
③ 施設利用者への礼状を書く場合 / 123	
3 実習施設の行事やボランティア活動等への参加	123
① 実習施設の行事への参加 / 123	

- ② ボランティア活動への参加 / 124
- ③ 行事やボランティア活動に参加する意義 / 124

第8章 保育実習Ⅲ

- 1 保育実習Ⅲの意義と目的126
- 2 保育実習Ⅲの概要126
- 3 保育実習Ⅲの実習内容127
 - ① 「保育実習Ⅲ」を行う施設 / 127
 - ② 子ども理解と受容・共感的態度 / 127
 - ③ 子どもの家族への支援と対応 / 128
 - ④ 多様な専門職、地域社会との連携 / 129
 - ⑤ 個別の支援計画の作成と実践 / 130
- 4 保育実習Ⅲの実習計画131
 - ① 実習計画作成の意義 / 131
 - ② 実習計画の作成 / 131
- 5 事後指導による保育実習Ⅲの総括と評価
—実習の総括と自己評価・自己課題の明確化—132

第9章 施設実習にあたってのQ&A

—いざというときのために心構えをもとう—

- 1 実習前において134
 - 2 実習中において142
 - 3 実習後において149
- 文献一覧151
- 資料：保育実習実施基準153

1 実習生の立場から

みなさんは、保育士になるために、さまざまな教科を学んでいます。そのなかで、幼稚園は3歳以上の幼児が通う学校であり、幼稚園の先生は教員であること、保育所は0歳～1歳未満の乳児と1歳以上の幼児が通う児童福祉施設であり、保育所の先生は保育士であることを学びました。

また、保育士は、保育所だけでなく、同じ通所型の児童発達支援センターや、入所型の母子生活支援施設・乳児院・児童養護施設・障害児入所施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設で働くことのできる、福祉の専門職であることも学んだことでしょう。

つまり、保育士には、原則的に0歳から18歳未満の社会的養護を必要とするあらゆるタイプの子どもたちを保育（ケア）することが求められます。そのためには、専門的な知識と技術を十分に身に付けておかななくてはなりません。

さらに、妊娠・出産・子育ての経験がなくても、保育士は保護者の子育てを支援する役割を担っていますので、子育て相談等について適切に対応する知識や技術も大切なのです。

保育士を養成する学校では、こうした保育士になるための専門的な知識と技術が習得できるように、国（厚生労働省）が定めた基準に沿ってカリキュラムを編成しています。そして、保育士を養成する学校を、保育士になるために定められた単位を取得して卒業することで、保育士となる資格を得ることができます。その後（または卒業見込みおよび資格取得見込みの段階で）、都道府県に保育士登録の申請手続きを行って、保育士としての基準に達していると認められると、都道府県から保育士登録証が交付され、保育士と名乗ることが許されるのです。

では、保育士としての専門的な知識と技術を修得するためには何が必要なのでしょう。

まずは、保育に関する専門科目と教養科目をしっかりと学ぶことが重要です。子どもの命や発達などを保護者に代わって保障するわけですので、常識や教養を身に付けていないと困るのです。また、保育や子育て支援に関する専門的知識や技術ももちろん必要です。そして、真面目に真剣に前向きに学ぼうとする姿勢のある人が、子どもにも保護者にも信頼される保育士になれるのです。

こうした各教科を学ぶこととあわせて、保育士になるために必要なのが保育実習です。保育現場で、子どもたちと関わることを通して、保育士の職務を経験的に学ぶというだけでなく、学校でのさまざまな教科で学んだものが統合される場が保育実習なのです。そして、保育実習での実践的な学びを通して、知識と技術の専門性が高まっていくことになります。

国（厚生労働省）は、「保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎

とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」と、保育実習実施基準に定めているのです。巻末に、「保育実習実施基準」を掲載しているので参照してください（pp.153-155参照）。

① | 保育実習 I の意義と目的

保育実習 I は、保育士養成課程の必修科目であり、保育所実習（2単位、おおむね10日間）と、施設実習（2単位、おおむね10日間）を行います。保育実習 I における施設実習というのは、居住型児童福祉施設等あるいは通所型障害児施設等（詳細は次項参照）での実習となります。

保育実習 I では、次の5項目が目標となっています。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容をふまえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や倫理観について学ぶ。

これらの目標を達成するために、それぞれについて下記のように、保育所実習と居住型児童福祉施設等および障害児通所施設等における実習の内容が定められています。

< 保育所実習 >

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所の生活と一日の流れ
 - (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開
2. 子ども理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画、観察、記録
 - (1) 保育課程と指導計画の理解と活用
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容